

MR I 造影剤用の説明・承諾同意書

MRI 検査で使われる造影剤(ガドリニウム製剤)を注射する必要性と副作用について説明します。
(入院期間中はこの文書を継続して使用します。)

[造影剤についての説明]

今回実施するMR I 検査は、造影剤 (ガドリニウム製剤) という薬の注射をします。造影剤は X 線検査で病気の有無や病気の性質、範囲といったことをより正確に評価するために用いられるものです。造影剤を使うかどうかは検査の部位や目的によってさまざまに検査に応じて主治医・担当医が判断致します。

造影剤を使うとまれに副作用が起こることがあります。副作用の種類は次のようなものです。

1. **軽い副作用 (100 人に 1 人程度)** : 吐き気、動悸、頭痛、かゆみ、くしゃみ、発疹などです。これらは治療を要さないか、症状が続く場合などは薬剤 (抗アレルギー剤) を投与することで改善するものです。
2. **重い副作用 (1 万人に 1 人程度)** : 血圧の低下、呼吸困難 (さらに低い確率) が起きる人がいます。点滴、ステロイド、昇圧剤などの薬剤で対処しほとんどの症例で回復します。
3. **重篤なショック状態 (10 万人に 1 人以下)** : 急激な血圧低下や心停止、呼吸停止のことです。呼吸の確保 (気管挿管)、点滴、昇圧剤を使う等でショックに対処し、これらの可能性に対する万全の態勢を整えています。
4. **遅発性副作用** : 検査中よりも頻度は少ないのですが、検査終了後に遅れて軽い副作用が出ることがあります。まれに重い副作用が出ることもあります。症状の発現は検査 1 時間程度から数日後まで幅があります。もし、これらの症状が出た場合には、当方にご連絡または御来院ください。

* これらの副作用は過去に造影剤を用いる検査で症状が出た場合、よりアレルギー反応が起こりやすいとされていますので、過去の検査でこれらの症状が出た経験のある方は必ず主治医、担当医などにお申し出ください。過去に軽度のアレルギー反応が出ていてもステロイド剤等のアレルギーを抑える薬剤を事前に投与し、安全に施行することができますので、主治医、担当医にご相談ください。また、過去の検査でなにもなかったからといって、今回の検査で大丈夫という保証はありません。

造影剤を注射するときまれに血管外にもれることがあります。この場合には、注射した部位がはれて、痛みを伴うこともあります。基本的には時間がたてば、吸収されて心配ありません。

当院では検査中、放射線技師・看護師が患者様の様子を観察しており、万一の副作用に対してもすばやく対応できるようにした上で、検査を行っています。もし変だと感じたら、ためらわずにすぐにおっしゃってください。

次ページに問診表がありますので、ご記入をお願いします。

造影剤の注射に同意されれば、**下欄に署名のうえ検査当日にお持ちください。**

患者様が未成年や意識障害のある場合は家族や代理の方でも結構です。もし造影剤の注射に気が進まなければ、MRI 検査では得られる情報は減りますが造影剤を使用せずに検査を行いますので、主治医と御相談下さい。(印がない場合は署名だけでも有効とします)

以上、私は、患者 _____ 様の上記のガドリニウム造影剤について説明いたしました。

平成 年 月 日

紹介元医療機関

紹介元主治医

平成立石病院 院長 大澤 秀一

平成立石病院 院長 殿

平成 年 月 日

私は、上記造影剤に関してその必要性と副作用について説明を受け理解いたしましたので、造影剤の血管内注射に承諾同意します。また万が一、副作用が現れた場合にはそれに対処する為の必要な処置を受けることも併せて承諾同意します。

患者 (または代理人) _____ (ご署名) _____ (代理人の場合は患者との続柄 _____)

